

京都大学人文科学研究所共同研究実績・活動報告書

(3年計画の1年目)

1. 研究課題

日本鍼灸医術の形成—近世医学史の再構築

Formation of Japanese acupuncture-moxibustion : Reconstruction of the medical history in medieval and early modern Japan

2. 研究代表者氏名

長野 仁

NAGANO Hitoshi

3. 研究期間

2018年04月 - 2021年03月 (1年度目)

4. 研究目的

現代鍼灸は、極端な欧化政策による鍼灸廃絶の危機を回避するために、医科学的アプローチによる臨床研究を最優先課題とし、医道の伝統を継承しつつも歴史的な側面は置き去りにしている。日本医学の通史を振り返る時にも、近代医学の系譜として先駆的業績を顕彰するに止まり、近世に大いに発展した鍼灸医術の種々の流儀や理論的構造に論及することはない。しかし、京都大学の富士川文庫をはじめとして、数多くの流儀書、理論書が伝存しており、日本医道における技術的伝統は手がつけられないままに埋没している。そこで、本研究では、鍼灸関連の古医書の総合的な考察を試み、鍼灸医術の形成、伝承形態の具体的な様相を明らかにし、多角的なアプローチによって鍼灸医術の本質的特色を探る。そして、「日本鍼灸学」という新分野を開拓し、医薬、鍼灸の学界に遡及的考察を行う研究基盤を構築することによって、近世医学史の再構築を図る。

5. 本年度の研究実施状況

近世から現代へと受け継がれてきた鍼灸医術の源流を探り、伝授形式や流儀を具体的に検討することによって、鍼灸学派の系譜を明確にし、技術的伝統の形成に構造的把握を試みた。本年度は、とりわけ現存最古の鍼道伝授書である『針聞書』を考究対象に取り上げ、著者である茨木元行が唱えた今新流の伝播を追跡し、近世鍼術の流派がどのように分岐していったのかを系譜づけながら、その著作に図解されたハラノムシの病理観や治療法、診断術をめぐる諸問題を討議した。研究班の立ち上げに際し、茨木元行『針聞書』編纂450周年を記念して覆刻版を刊行するとともに、5月12日に地元の茨木市鍼灸師会と共催で茨木神社にて茨木元行顕彰会の発足式を挙行し、翌日に茨木市立生涯学習センターにて声優の神谷明氏、古箏演奏家の伍芳氏、古典落語家の桂福丸を特別ゲストに招いた覆刻版刊行記念公開イベントを共同研究会と連動する形で開催した。また、班長が実行委員長を務めた日本伝統鍼灸学会大会(11月24-25日開催)においても、『針聞書』編纂450周年をメインテーマとする併催イベントを実施し、『針聞書』を基軸にした

鍼灸医術共同研究プロジェクトを大々的にアピールした。なお、9月には地震と台風で被害に遭った茨木神社の復興支援を目的として、班長、副班長と大形徹氏を講師とするチャリティ講演会を行ったことも附記しておく。

6. 研究成果の概要

研究班の立ち上げに際し、茨木元行『針聞書』編纂450周年を記念して覆刻版を刊行するとともに、5月12日に地元の茨木市鍼灸師会と共催で茨木神社にて茨木元行顕彰会の発足式を挙行し、翌日に茨木市立生涯学習センターにて声優の神谷明氏、古箏演奏家の伍芳氏、古典落語家の桂福丸を特別ゲストに招いた覆刻版刊行記念公開イベントを共同研究会と連動する形で開催した。また、班長が実行委員長を務めた日本伝統鍼灸学会大会(11月24-25日開催)においても、『針聞書』編纂450周年をメインテーマとする併催イベントを実施し、『針聞書』を基軸にした鍼灸医術共同研究プロジェクトを大々的にアピールした。なお、9月には地震と台風で被害に遭った茨木神社の復興支援を目的として、班長、副班長と大形徹氏を講師とするチャリティ講演会を行ったことも附記しておく。

7. 本年度の研究実施内容

2018-05-12

「日本鍼灸医術の形成」班／国文学研究資料館医学書班 合同研究会 茨木の歴史と文化～わがまち茨木へようこそ～

発表者 岡市正規 茨木神社宮司

茨木元行の今新流～小国郷への伝播について～

発表者 長野 仁 森ノ宮医療大学大学院教授

南小国志賀瀬の橋本龍雲家旧宅の現状報告

発表者 原山光成 小国郷史談会会長

『腹の虫の研究』概説

発表者 辻本裕成 南山大学人文学部教授

2018-05-13

「ザ・ハラノムシ・ワールド」(茨木元行『針聞書』編纂450周年完全覆刻版刊行記念イベント)

内弟子55年!!わが師 井上恵理

発表者 南谷旺伯 元岐阜県鍼灸師会会長／旺針療所院長

中国古箏ミニコンサート「東洋医学の風景」

発表者 ウー・ファン 中国古箏演奏家

教師生活25年!ハラとハラノムシとワタシ

発表者 長野 仁 森ノ宮医療大学大学院教授／鍼灸鴻仁院長

古典落語「疝気の虫」

発表者 桂 福丸

トークショー「オレの名は。声優半世紀の職人魂！」

発表者 神谷 明

2018-10-07

琢周系流儀書の書誌

発表者 長野仁 森ノ宮医療大学大学院・教授

出雲地方の医学史と琢周

発表者 梶谷光弘 公財)いつも財団・研究員

『諸虫針治論図』諸本の異同一図示される「虫」の図の比較から一

発表者 池内早紀子 大阪府立大学大学院・博士課程

2018-11-23

医事説話の誕生と成長—鍼立・無分の場合—

発表者 福田安典 日本女子大学 教授

『難経俗解』一栢注と『扁倉伝』幻雲注について

発表者 宮川浩也 日本内経医学会 会長

2019-02-03

「経絡治療」の歴史、「脉診」の歴史

発表者 浦山久嗣 赤門鍼灸柔整専門学校

2019-03-10 東京ミーティング 2019.3「後藤・香川流古医方の学統」

後藤良山の門人録『儒医姓名録』

発表者 長野 仁 森ノ宮医療大学

丸亀藩医・尾池家の系譜について」

発表者 中澤 淳 東亜大学

讃岐藩医・宮武家の系譜について

発表者 宮武 浩二 阪急田園バス

8. 共同研究会に関連した公表実績

なし

9. 研究班員

所内

武田時昌、古勝隆一、高井たかね

学内

赤澤久弥(附属図書館)、成高雅(人間・環境学研究科)、中神由香子(医学研究科)、劉青(人間・環境学研究科)

学外

荒川緑(東洋鍼灸専門学校)、猪飼祥夫(猪飼鍼灸・院長)、ウォルフガング・ミヒェル(九州大学)、浦山 きか(森ノ宮医療大学)、浦山久嗣(赤門鍼灸柔整専門学校)、大浦 宏勝(はりきゅう処 路傍庵)、郭 秀梅(順天堂大学)、加畑聡子(二松學舎大学大学院)、紀野江理(森ノ宮医療学園専門学校)、小曾戸 洋([公財]武田科学振興財団杏雨書屋)、佐々木啓(鍼灸鴻仁)、島山奈緒子(明治国際医療大学)、鈴木達彦(平成帝京大学)、高津孝(鹿児島大学)、多田伊織(鈴鹿医療科学大学)、谷田保啓(たにだ鍼灸院)、中神源一(中神内科クリニック)、長谷川佳与子(奈良女子大学大学院)、東昇(京都府立大学)、深水美和(専

門学校 大阪医専)、松木宣嘉(四国医療専門学校)、真柳誠(茨城大学)、三鬼丈知(大谷大学)、物部陽明(森ノ宮医療学園)、横山浩之(森ノ宮医療大学)、吉永進一(舞鶴工業高等専門学校)、梁永宣(北京中医薬大学)、和辻直(明治国際医療大学)

10. 共同利用・共同研究の参加状況

区分	機関数	参加人数				延べ人数			
		総計	外国人	大学院生	若手研究者	総計	外国人	大学院生	若手研究者
所内	1	2 (1)	0	0	0	11 (5)	0	0	0
学内	1	4 (3)	2 (2)	2 (2)	1 (1)	10 (8)	7 (7)	6 (6)	4 (4)
国立大学	6	6 (3)	0	1 (1)	1 (1)	12 (5)	0	1 (1)	1 (1)
公立大学	2	7 (4)	1 (1)	1 (1)	0	16 (9)	1 (1)	5 (5)	0
私立大学	16	20 (11)	1 (1)	2 (1)	4 (3)	39 (24)	3 (3)	6 (5)	4 (3)
大学共同利用機関法人	2	2 (1)	0	0	0	2 (1)	0	0	0
独立行政法人等公的研究機関	2	2 (0)	0	0	0	2 (0)	0	0	0
民間機関	3	10 (2)	0	0	0	10 (3)	0	0	0
外国機関	1	1 (0)	0	0	0	1 (0)	0	0	0
その他	88	410 (184)	1 (1)	0	12 (5)	459 (205)	4 (4)	0	13 (6)
計	122	464 (209)	5 (5)	6 (5)	18 (10)	562 (260)	15 (15)	18 (17)	22 (14)

※()内には、女性数を記載

11. 本年度 共同利用・共同研究を活用して発表された論文数

参加研究者がファーストオーサーであるものを対象

総論文数	18(18)
国際学術誌に掲載された論文数	2(2)

※()内には、拠点外の研究者による成果(内数)を記載

高いインパクトファクターを持つ雑誌等に掲載された場合

掲載雑誌	掲載 論文数	主なもの	
		論文名	発表者名
ACTA ASIATICA (BULLETIN OF THE INSTITUTE OF EASTERN CULTURE) No. 115	2	The Traditions and Characteristics of Vietnamese Medicine	<u>MAYANAGI</u> <u>Makoto</u>

※拠点外の研究者については、発表者名にアンダーラインを付す

インパクトファクターを用いることが適当ではない分野等の場合

掲載雑誌	掲載 論文数	主なもの	
		論文名	発表者名
医譚	2	日本医薬・博物著述年表の作成で分かったこと	<u>真柳誠</u>
日本医史学雑誌	1	『桃山時代解剖之図』について	<u>真柳誠</u>
人文コミュニケーション学論集(茨城大学人文社会学部紀要)	2	韓国国立中央図書館の古醫籍書誌(七)	<u>真柳誠</u>
易道連ジャーナル	1	医易同源—医学哲学の観点から—	<u>舘野正美</u>
日本未病システム学会雑誌	1	〈未病を治す〉と〈医は意なり〉—〈未病を治す〉の医学哲学的背景—	<u>舘野正美</u>
中国語中国文化	1	中神琴溪の天命観—医学思想の観点から—	<u>舘野正美</u>
漢方の臨床	1	宇津木昆台の字	<u>松岡尚則</u> ・ <u>永塚憲治</u> ・ <u>別府正志</u>
医薬の門	5	医史学に関する書画史料の豊富なコレクションを誇る～日本大学図書館医学部分館医学部 資料室～(医学図書館探訪)	<u>永塚憲治</u>
歴史文化社会論講座紀要	1	京都大学富士川文庫所蔵多紀氏関連資料に関する一検討	<u>成高雅</u>
人間・環境学	1	朱権『活人心』の朝鮮と日本における伝播 --諸本の比較を通して--	<u>劉青</u>

※拠点外の研究者については、発表者名にアンダーラインを付す

12. 費目の 30%を超える大幅な変更があった場合の変更理由
なし

13. 次年度の研究実施計画

富士川文庫を中心とした研究資料の読解を行いながら、班員による研究発表、特別講師を招いた講演会を開催し、近世において鍼灸医術がどのように形成され、発展していったかの具体的様相を探る。国際日本文化センターに寄贈された宗田一旧蔵の未整理資料について、整理を担当する松田清氏、光平有希女史と連携した合同調査を企画中である。また、老官山出土医簡を含む新出医家史料の最新情報を集約し、鍼灸医術の源流に遡及的な考察を試みる。江戸の鍼術の流派を系統的に整理し、近代の欧化政策による弾圧を克服して、現代鍼灸にどのように継承されているのかについて、中医学、韓医学と比較しながら検討する。班員による研究発表会とともに、鍼灸医術に通じた研究者、臨床家を招いた特別講演会を開催する。『香川南洋門人録』(近世医家新出史料集第二冊目)の刊行を予定(担当者は永塚憲治・松岡尚則)。

14. 次年度の経費次年度の経費

国内旅費	研究会参加費	開催回数 10 回 国内出張旅費(延べ 20 人)	支出予定額(450,000 円)
	一般旅費	国内出張旅費(延べ 4 人)	支出予定額(150,000 円)
謝金(講演謝金、研究協力謝金、その他の謝金)			支出予定額(200,000 円)
その他		印刷費(『南陽門人録』)	支出予定額(200,000 円)
合計			1,000,000 円

15. 研究成果公表計画および今後の展開等

なし